

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度第1回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成30年8月30日(木) 午後2時～午後4時
開 催 場 所	市役所4階 401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者:委員7名 欠席者:なし
議 題 等	平成29年度地方創生関連交付金活用事業評価について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	2事業について、いずれも地方創生への効果はあるものとし、推進委員会からの意見をまとめて、後日委員に確認する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<p>平成29年度地方創生関連交付金活用事業評価について (事務局) 平成28年度地方創生拠点整備交付金(平成29年度実施)に係る事業実施結果報告(村山温泉「かたくりの湯」施設整備事業の概要、KPI実績値等)について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委 員) かたくりの湯と同様の温泉施設の売上げの比較はしたことがあるか。 (事務局) 比較を試みたが、民間事業者は売上げを開示しておらず、できなかった。</p> <p>(委 員) 温泉施設の来場者数の目標はどれくらいか。温泉施設に入り得る限界値が不明である。 (事務局) 開設年の翌年は30万人を少し欠け、29万人台であった。</p> <p>(委 員) 温泉施設の来場者のリピーター率を捉えられないか。賑わいの創出となると、リピーターよりも新規の方に来ていただく必要がある。 (事務局) 指定管理者に確認する。</p> <p>(委 員) 会員カードで利用回数が把握できるのではないか。 (事務局) 必ずしも会員カードを作らなくても利用はできる。リピーター率については確認する。</p> <p>(委 員) プールの利用者は多いのか。スイミングキャップの着用義務付けを緩和できないか。 (事務局) 施設管理上、着用義務付けの緩和は難しい。</p> <p>(委 員) 炭酸泉の新設だけではあまり売りにならない。雑誌掲載などのPRは行っているのか。 (事務局) 多額の費用がかかるような媒体にはなかなか掲載できない。</p> <p>(委 員) プールで、子どもが少ない時間帯に別の客層向けのプログラムを実施するのはどうか。集客+広告ができるとうい。 (事務局) プールでは複数のプログラム(教室)を実施している。狭山丘陵のランナーやサイクリングをされる方向へのロッカー貸出しなども行っている。</p> <p>(委 員) プログラムは有料なのか。 (事務局) 有料も無料のものもある。</p>

- (委員) そのようなプログラム自体を知らない人が多い。
- (事務局) 温泉のホームページと市報で必ず掲載している。
- (委員) 賑わいの創出を目標とするのであれば、アクティブな人に来てもらえるような教室を開催した方がよい。
- (委員) 小学生向けのプログラムは参加者が多いようである。
- (委員) 施策とK P I がつながっていない。どういうP Rをすることで、どういう層をどれくらい呼びたいのか。
- (委員) ターゲットが見えない。
- (委員) レストランでの女子栄養大学監修メニューの販売数は、指定管理者から教えてもらえるのか。
- (事務局) プログラムのターゲット層を確認する。
- (委員) 指定管理をしている会社の情報を載せてほしい。K P I は下がっているが、何をしたことによってそのような結果になっているのかが分からない。
- (委員) 温泉施設がどのような取組をしているのかが分からない。
- (事務局) 平成29年度は9日間の営業のみだった。
- (委員) 都立野山北・六道山公園のあそびの森にはよく行くが、温泉には入らない。施設利用料なしで、施設内のレストランのみの利用ができることも知らなかった。P Rの方法の問題だと思う。もっと人が呼び込めるし、収益が挙げられる場所である。広がりがあるがどこかで途切れてしまっているのではないか。
- (委員) 多目的ルームで実施している「ママとベビーのふれあい教室」などはもっと人が集められるプログラムであると思う。未就学児対象の教室の情報はどこで仕入れるものか。
- (委員) 市報の情報が大きい。
- (委員) 温泉施設で行っている教室の開催情報は市報に掲載しているのか。
- (事務局) 市報に掲載はしているが、子育て関係のページには載せていない。
- (委員) 未就学児のいる家庭は子育て情報のページをよく見るので、教室の開催情報を載せるとよい。
- (委員) 親子広場や母子手帳の交付の際にチラシを配布するのもよいかもしれない。
- (委員) 市の情報メールでも流したらよい。今はメールよりもL I N E が主流であるので、P R手法としてL I N Eの活用を検討してはどうか。
- (事務局) 主管課に伝える。
- (委員) 安全なキッズスペースがあるというのは、親にとってはかなり魅力的である。
- (委員) 炭酸泉は流行っているし、ヨガ教室と温泉などの組合せは魅力的であると思う。
- (委員) バスに乗らないと行けないのが残念である。
- (委員) 地方創生の効果については、平成29年度の9日間の営業に限定すればあったと言っていいのではないか。
- (委員) 宴会ができるようになったのは大きい。
- (委員) 市内企業に宴会プランのチラシをまくなど、ツアーパックをP Rするものよい。
- (委員) 自転車置き場について、スタンドがない自転車でも利用できるようになったというのは売りになるので、パンフレットに載せてもよいのではないか。このパンフレットでは、レストランのみでも利用できることや、様々なプログラムを実施していることが分からない。
- (委員) オートキャンプ場が近くにあるとよい。

(委員) キャンプ場があればより人気が出ると思う。バーベキュー、アスレチック、温泉、みかん狩りができるところが集まっているのは大変魅力的である。

(委員) 本事業について、地方創生に効果はあるということで、意見は本日出たものをまとめて、後日確認することとする。

(事務局) 平成29年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告(魅力づくり推進事業の概要、KPI実績値等)について説明

—質疑・意見等—

(委員) 予算の都合上、ツアーは2回しか催行できないのか。

(事務局) 平成28年度実施の際は国から事業費の10分の10をもらったので8回催行できたが、平成29年度は事業費を大幅に減額したので、2回が限度かと思われる。

(委員) 本事業の目的は、本市を知らない人に知ってもらうこととしたら、報告書にある「来年度に向けた課題」が募集期間を長くするというのでは違うのではないか。参加者がどれだけ本市の魅力を発信してくれたのかに焦点を当てるべきではないか。

(委員) アンケート結果を見ると、参加者の56%が武蔵村山市を知らなかったと回答している。その人たちに知ってもらえたのは成果である。

(委員) ツアーを知ったきっかけが、市のホームページだった人は1人のみである。

(委員) 告知方法によっては、もっと応募が増えるのではないか。

(委員) 1週間の募集期間で26、7人の人が集まったのは、良い数字のようにも思う。

(委員) チラシを3,000部印刷している。

(委員) むむちゃんクリアファイルを1,000枚制作して、24人に配布というのはどういうことか。

(事務局) 「ムサブラ」アプリをダウンロードしてSNSにアップし、所定の場所に持参していただいた方に配布した枚数である。

(委員) アプリをダウンロードして発信してくれた人が予想より少ないというのは課題である。

(委員) 特に市外の方は、クリアファイルをもらいに武蔵村山市までわざわざ来ないかもしれない。

(委員) 大多数が市外の人であったのはよかった点である。

(委員) ツアーの数を増やせるとよい。ツアーよりも広報に費用がかかるのか。

(委員) アプリや動画の作成に費用はかかると思う。

(委員) アプリがそこまでダウンロードされていないのは、広報なのかコンテンツの問題なのか。

参加者に積極的にSNSに投稿してもらい、市の魅力を広めることが大事である。アンケート結果の中で、武蔵村山市の魅力として「おしゃれな壁があった」とある。今は「インスタ映え」が人気なので、身近なところに魅力があるのかもしれない。

(事務局) どこにある壁のことか確認する。

(委員) やはりPRが大事である。

(委員) 本事業について、地方創生に効果はあるということで、意見は本日出たものをまとめて、後日確認することとする。

会議の公開・ 非公開の別	■公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()
-----------------	--

傍聴者： 0人

会議録の開示・ 非開示の別	■開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
------------------	--

庶務担当課	企画財務部 企画政策課(内線：374)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)